

No.699 February 2015

ASAHIMACHI



Ⓞ 広報 あさひまち

冬道守る職人技



2015
2

No.699



マレーシアの首都クアラルンプールにある高級百貨店で試食販売を行う鈴木町長と三浦農林振興課長。消費者の反応は抜群で、今後に向けた手ごたえを感じている

りんごの海外輸出量が今年度、過去最高の約39トンに達する見込みです。りんごの輸出については、平成16年度の開始以来順調に量を伸ばし、一時は37トンにまで到達。しかし東日本大震災による福島第一原発の事故で激減し、風評被害の大きかった23年度は14トンまで落ち込みました。

ここ数年は、主要輸出国の台湾で日本の産地間競争が激化しているものの、フィリピンやマレーシアなどに販路を

を開拓し活路を見出ししています。また鮮度保持加工(スマー トフレッシュ)の導入で品質面での評価が高まり、全体としても震災前の勢いを取り戻しつつあります。

こうした中、今年大きな手ごたえがあったのがマレーシア。昨年試験的に輸出したことから、シナノスイートなど品種を拡大するとともに、数量を0・25トンから50倍の12・5トンへと飛躍的に伸ばしています。その量は台湾に

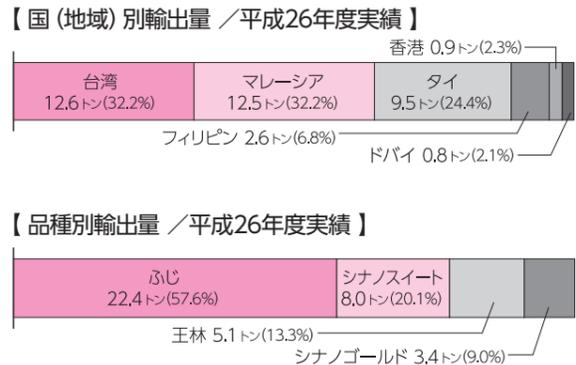
過去最高の39トン!

マレーシアが好調
中東ドバイにも初

りんご海外輸出

迫るほどになっています。1月下旬から2月上旬にかけては、鈴木町長と生産者、町職員が首都クアラルンプールに出向き、現地の高級百貨店で試食販売を実施。店頭に立った三浦浩一農林振興課長は次のように話します。「現地では日本産りんごがまだほとんどありません。食感があって蜜の入った当町産のりんごはとても好評で、試食いただいたお客さまの大半が購入していました。他国同様、日本産の農産物に対する信頼は高いと実感するとともに、試食販売の重要性を再認識したところです。マレーシアは新幹線や地下鉄が整備されるなど、これからますます経済成長が見込めます。りんごをはじめ日本産農作物への需要はさらに高まっていくと思います。」

今年の中東きつての都市ドバイ(アラブ首長国連邦)にも試験的に輸出(ふじ)。世界貿易の中核で、富裕層も多く住んでいることから、今後の輸出拡大に、関係者は大きな期待を寄せています。



目次 CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
過去最高の39トン!りんご海外輸出
- P4 特集
町の除雪が上手い理由
- P10 町政スポット
・朝日町自主防災会研修会
・朝日町・山形市間直行バスが利用者5万人を達成
・町長寿クラブ連合会が発足50周年 ほか
- P12 まちレポ
・プロスノーボーダー児珠藍さんのワンポイントレッスン
・引カバーガーの特別販売
・Asahi自然観スキー場まつり ほか
- P14 住人十色<<番外編>> 永井毅さん(山形市)
- P15 それいけ!ウサビと協力隊、町立図書館コーナー
- P16 健康あさひるばんざい、朝日町文化財探訪
- P17 あさひまちファンを全国につくっていこう
- P18 町商工会女性部が「朝日町自慢の番付表」を作成
- P19 となりのりんごさん、戸籍のまど
- P20 町制施行60周年記念 第4回神風船まつり

表紙の写真



町の除雪隊を密着取材した2月2日、Asahi自然観近くの白倉地内で撮影しました。寒々しい景色の中で粉雪を巻き上げながら稼働する鮮やかな黄色のロータリー除雪車。この日は終日気温が低く、前日から降った雪が木に凍りついたまま。かすかに青みがかかった冬空とのコントラストに、どこか心惹かれました。

(4ページから特集記事)

町長歳時記 (105)

私の生きる場所

~それは日本の雪国、朝日町~

~これは遙か遠い北国の昔々のお話です。それは凍えそうな真冬のことでした。ある少女が病気の母のために夏にしか採れない薬草を、雪深い森の中に探しに行きました。行けども行けども雪野原で、少女はすっかり疲れてしまい倒れそうになったその時、ふと前を見るとそこにちらちら灯る小さな篝火が見えました。そこには若者から白い髭を蓄えたおじいさんまで全部で12人。皆で楽しそうに話していました。疲れ切った少女はやっとの思いで辿り着き、病気の母のために何としても薬草を持って帰らなければならないという話をしました。それを聞いていた一番長老のおじいさんが篝火の前に両手を広げ杖を掲げ、地面をも震わせる呪文を唱え出しました。すると辺り一面色鮮やかな花が咲き乱れ、その先に少女が探していた一輪の薬草が首を垂れて可憐に咲いておりました。~

真冬のそれも大寒の最中、現実に真夏の世界があることなど、昔々の人々は想像すらすることができなかったことでしょう。そして現代...

真冬の日本を旅立ち7時間、30度を超える真夏のマレーシアに降り立ったのが1月30日。道行く人は半袖シャツに真夏の装い。空港に着いた途端にスコールの洗礼を受け、翌日は正に真夏の太陽が、頭の真上にぎらぎらと輝いていました。まさしくここは赤道直下の南国でした。

「この国は地震も台風も来ない、一年中常夏のとても過ごしやすい国ですよ」と地元の人は私たちに話しかけます。本当にそうかもしれないと思いつつ、2月1日夜遅く、夜間飛行で帰国の途に就きました。数時間後まだ夜も明けやらぬ早朝成田に降り立った私たちは、氷点下の真冬に戻され、はっと我に返り、しみじみと実感したところでありました。

「私は日本人なんだ。私の生きる場所は日本の雪国、朝日町なんだ」と。

朝日町長 鈴木浩孝

真夜中の出動

7センチ以上の積雪で早朝出動
町道除雪を担う「朝日町除雪隊」

「積雪10センチです。よろしくお願
いします」

午前2時30分、消防署朝日分署か
ら入る一本の電話。受け手は「朝日
町除雪隊」の運転長として町道除雪
の指揮を執る佐久間貢一さん（栗木
沢）。この道32年目の超ベテランです。
支度を整えて役場そばにある除雪基
地に向かうと、すでに若手が除雪車
に積もった雪を払い、出動の準備を



「朝日町除雪隊」の
佐久間貢一運転長

整えていました。

除雪隊が早朝出動するのは、前日
からの積雪が7センチを超えたとき。
消防署朝日分署の前には町の積雪量
を示す計測器があり、同時刻でこの
量を超えると、佐久間運転長のもと
に連絡が入ります。「出動時間は午
前3時。外は当然真っ暗で、『早朝』
出動と言っても、実際は真夜中です。
出動時間は5年ほど前に30分繰り上
げられ、今の時刻になりました。社
会の変化とともに、除雪ニーズも多
様化しています」。

この冬は12月から1月上旬にかけ
て大雪に見舞われ、早朝出動が多く
なっています。その回数は2月10日
で20日目。去年が1シーズンで21日
だったことを考えると、その多さは
明らかです。「私も58歳。早朝出動
が数日続くとさすがにこたえますね。

去年は6日間連続ということもあり
ました。次の日の出動が確実なとき
は、8時には寝ます。とにかく健康
第一ですから」。

雪が降れば正月も返上

隊員の勤務は基本的に平日ですが、
雪が降れば当然週末も出動します。
それは大晦日や正月も同じで、いつ
降るかわからない雪に常に気を配っ
ています。

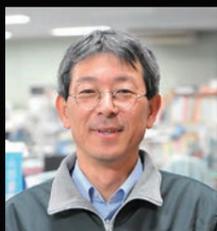
「冬場は予定を立てにくくなります
し、早朝出動に備えてお酒を控えな
ければなりません。冬期間はあまり
晩酌しなくなりますので、妻が喜ぶん
です。出費が減って助かって（笑）」。

出動はミーティングを済ませた後
の午前3時30分。黄色の回転灯をき
らめかせた約20台の車両が一斉に基
地を出ました。

多くが認める「除雪の上手さ」

毎年のべ500～600センチほどの降雪がある朝日
町（宮宿観測所）。山間部では一日に50センチ以上積
もることもあり、冬場の生活維持には細やかな除雪が
欠かせません。この点において、朝日町の除雪はとて
も評価が高く、先日商工会女性部が発行した「山形県
朝日町自慢の番付」でも「除雪のうまさ」が番付され
ました（18ページに記事）。

毎日山形市まで通勤する白川広之さん（松程）もこ
う感じる一人。遠距離通勤者ならではの感想を次のよ
うに話します。「冬場は6時10分に家を出ます。朝日
町の道路はいつもきれいに除雪されていて、とても助



山形市まで通勤する
白川広之さん（松程）

かりますね。寒河江市中郷
経由で通勤していますが、
地域によっては圧雪でデコ
ボコだったり、シャーベッ
ト状だったりして走りにく
いこともしばしば。雪の日
の帰り道は、朝日町に入
るとホッとします。路面
状況が良くて」。



町の除雪が上手い理由

「朝日町の道路って、除雪が行き届いているよね。とっても運転しやす
い」——。毎年冬になるとこうした声があちこちから聞こえてきます。
町の道路は誰が、どのように除雪しているのでしょうか？今回の特集
では町の道路除雪の裏側を紹介します。





冬場の道路は

こう維持されている

2月7日深夜に行われた国道287号前田沢交差点の排雪作業。交差点の前後約1キロを全面通行止めにし、除雪車5台を投入。道路脇に積み上げられていた雪を約4時間かけて撤去した。「一般車両にできるだけ影響が出ないように、作業は深夜に行います。迂回路となる町道の拡幅を事前に町に要請するほか、警察や消防、タクシー会社、新聞配達所などにも連絡した上で実施しています。とにかく安全第一ですから（清野さん）」

「一口に『道路』と言っても、国道、県道、町道によって、管理者は異なります。町内の国道・県道は県、町道は町が管理し、除雪体制も分かれています。町の除雪が評価されるのは、こうした管理主体にかかわらず、どの道路もこまめに、高い技術で除雪されていることが理由と言えます。」

町内の道路の場合、国道と県道の除雪は業者に委託されていて、24時間体制で管理されています。作業を請け負うのは大東建設株式会社の。管理体制などについて工務部の清野正利次長（前田沢）に話を聞きました。

深夜0時に起きて、出勤を判断
弊社は町内の国道287号、県道

日町域の国道除雪を統括することが任務で、12月から1月にかけては毎日深夜0時頃に起きて、道路をパトロールすることが日課。除雪が必要かどうかを判断し、出勤の際は作業員に連絡します。実際の除雪は午前2時から始まります。

出勤の基準は積雪量10センチですが、それに満たないからといって油断はできません。路面に著しく凹凸があったり、シャーベット状で走行しにくくなっているときもありますから。寝床に就くのは毎日8時から9時。出勤となれば3時間程度の睡眠でそのまま仕事になりますし、なければもう一度布団に入ります。睡眠時間や体を心配する人もいますが、慣れれば問題ありません。何せもう26年もこの仕事を続けてますから。

大切なのは、交通事情に応じた作業
我々の除雪が認められてもらえていることについては、とてもうれしく思います。ただ、私自身は冬期間ほとんど町内から出られないので、実はほかの地域の状況がわからないんです（笑）。除雪が上手い理由ですか？朝日町は近隣市町に比べて降雪量が多く、

のほとんどを請け負っています（※1）。作業員は約20人で、社員のほか、冬季限定の臨時社員で構成されています。ほとんどが町民で、後者の大半は農家。車両は凍結防止剤の散布車や歩道除雪車も含めると13台あり、1台2人体制で作業しています。私は「情報連絡員（※2）」という県の公的な役職を務めています。朝

作業時間が長い分、もしかしたら隊員の技術が高いのかもしれない。でも、一番は地域の交通事情に応じた作業を徹底していることだと感じます。管理する道路で最優先しているのは当然国道287号ですが、どんなに雪が多くても6時30分までは最低限自動車ですれ違える幅を確保するようにしています。この時間帯以降は通勤ラッシュが始まり、通勤者に迷惑がかかってしまいますからね。

国道287号が混み合う時間帯は比較的交通量が少ない県道に移り、集中的に作業を進めます。混雑が終わったあと再び国道に戻り、今度は「幅出し」といって道幅をより広くする仕上げ作業を行っています。作業員には、一般車両への気配りを忘れないよう伝えています。運転するのは「山形県」と表示された車両。責任と自覚を持ち、謙虚な姿勢で作業するようお願いしています。

真心と熱意の温かさで雪を解かす
作業は「除雪」ですが、私たちは真心と熱意の温かさをもって雪を解かすつもりで作業しています。今後、ご理解とご協力をお願いします。

山形県の「情報連絡員」として、町内の国道除雪を統括
大東建設株式会社
工務部 清野正利 次長



「毎日深夜0時に起きて、出勤を判断します」

国道・県道

→大東建設株式会社（県の委託）

※1 国道287号については、白鷹町方面が大平橋まで、寒河江方面が真中文交差点まで。以南、以北は他市町の業者が請け負う。
※2 西村山地域は寒河江、河北、西川、大井沢、左沢、そして朝日の6ブロック体制で、ブロックごとに情報連絡員が置かれている。

密着！除雪隊24時

町道除雪を担う朝日町除雪隊員は、どんな一日を送っているのでしょうか。2月2日、隊の一員である遠藤隆弘さん（=右／真中）に密着しました。



13



12



14

12. 遠藤さんの担当は白倉地内の拡幅。ベテラン隊員と一緒にロータリー除雪車に乗り込む 13. ほかの隊員も各地で排雪作業などにあたる 14. 正午、待ちに待った昼食。愛妻弁当にこの日一番の笑顔 15. 午後5時00分、午後の作業を終えて勤務終了。隊員の皆さん、お疲れさまでした



8



9

8. 午前7時50分、早朝出勤終了。ブレードについた雪を取り除く 9. 朝食をとり、つかの間の休憩。仲間との話に花が咲く 10. 11. 午前9時00分、作業再開。佐久間運転長から内容と担当が告げられる



15



10



11



4

4. 午前3時30分、一斉に出勤する約20台の車両 5. 遠藤さんの担当は和合地区。大隅側から作業を開始する 6. キャビンはガラス張りで360度見渡せる 7. 午前6時30分、和合平に到着。周囲は明るくなり、作業も最終盤



5

1. 午前2時50分、除雪基地に到着。各自が運転する除雪機に積もった雪を払う 2. 除雪機のエンジンを始動。暖機運転している間、リラックスしながらミーティングが行われる 3. モーニングコーヒーを飲みながら出勤のときを待つ隊員



1



7



6



3



2

「朝日町の除雪が上手い理由」
それは、道路を使う私たちの生活を第一に考え、私たちの生活に合わせた除雪体制が敷かれていること言えます。これに、実際に作業する人たちの技術や熱意、そして努力が加わり、さらに評価が高まっています。それは、国県道・町道、どちらも同じです。

町道除雪に関する年間の経費は、人件費、燃料費、修繕費など総額で約6000万円（重機の新規購入費は除く）。朝日町の場合、積雪量や出動回数を踏まえると、業者委託よりも低コストであると試算しています。

除雪予算は年間6000万円

除雪は定住対策に欠かせない要素の一つです。町の皆さんが冬場でも安心して暮らせるよう今後も事業を進めていきます。

一方、町道の除雪を担うのが、「朝日町除雪隊」です。毎年12月1日付で町長から辞令が交付される町の臨時職員で、3月31日まで活動します。今年度は23人体制で、ほとんどが農家。全長約180キロの町道や公共施設を分担し作業しています。

市町村が直接作業員を雇用し除雪を行うことは珍しく、県内では35市町村のうち3町しかありません（真室川町、金山町と当町）。ほとんどが業者委託です。朝日町がこうした体制をとる理由について、建設水道課の阿部弘美課長に話を聞きました。

「冬場の雇用創出」がはじまり
除雪のための臨時職員雇用は、冬場の雇用創出を目的に始められたと聞いています。昭和44年のことです。朝日町では農業が盛んですが、雪に覆われる冬場は仕事が少なくなりがちです。

除雪隊編成のメリットは、臨機応変な対応ができること。隊員の勤務形態は平日の8時30分から午後5時までですが、これは雪が降らなくても、早朝出勤があっても同じです。朝早くから仕事を始めたからと言って、お昼に帰るわけではありません。

日中の作業では、道路脇に寄せた雪をロータリー除雪車で片づけたり、雪で折れたり垂れ下がった樹木を撤去したりします。雪が降らなくてもやることはたくさんあって、隊員のパトロールや各区長さんから寄せられる情報にいち早く対応しています。

「業者委託ではなく、職員雇用。臨機応変な対応が可能に」

「朝日町の除雪が上手い理由」
それは、道路を使う私たちの生活を第一に考え、私たちの生活に合わせた除雪体制が敷かれていること言えます。これに、実際に作業する人たちの技術や熱意、そして努力が加わり、さらに評価が高まっています。それは、国県道・町道、どちらも同じです。

町道の除雪事業を統括
建設水道課 阿部弘美 課長



朝日町の除雪が上手い理由

結論！

「朝日町の除雪が上手い理由」
それは、道路を使う私たちの生活を第一に考え、私たちの生活に合わせた除雪体制が敷かれていること言えます。これに、実際に作業する人たちの技術や熱意、そして努力が加わり、さらに評価が高まっています。それは、国県道・町道、どちらも同じです。

真つ暗闇の早朝、窓に響く除雪車の音。それが聞こえてくる時刻の早さは、私たちの生活を最優先に作業が行われている証拠なのです。

今年の冬ももうすぐ終わります。除雪作業員の多くは再び農家に戻り、収穫の秋に向けた新たな一年が始まります。

町道

→朝日町除雪隊
(期間限定の町臨時職員)



山形空港発着の羽田便・名古屋便

往復 **5,000円** を助成します



山形空港の利用拡大を目的として、今年1月に県が実施した「山形空港応援WEEK」を延長します。

町民の皆さんが2月・3月に山形羽田便、山形名古屋便をご利用いただいた場合、一人あたり往復5,000円を助成します。ぜひご利用ください。

なお、助成には限りがありますので、事前申込みの先着順となります。

▶助成対象期間

平成27年3月31日(火)まで

▶対象路線

- 山形～羽田便 (JAL)
- 山形～名古屋便 (FDA)

▶助成額

往復で5,000円 (片道の場合は2,500円)

▶申込方法

旅行前に下記の申込先に連絡した上で、旅行後に「助成金交付申込書」に利用済み航空券等を添付し交付申請してください。

▶申込み・問合せ先

政策推進課 定住・戦略推進係 ☎67-2112

町長寿クラブ連合会が50周年

■町社会福祉協議会 ☎67-2465



町長寿クラブ連合会(川口幸次郎会長)の創立50周年記念式典と今年度の町高齢者福祉大会が1月28日創遊館で開催され、落語や会員の芸能発表で節目を祝いました。同会の前身である「町老人クラブ連合会」は、高齢者の福祉の向上を目的として昭和39年に設立。地域の単位クラブ活動を支援するほか、福祉大会、レクリエーション大会、研修会等を通じて、高齢者の生きがいづくりや健康増進、ひいては住みよい地域づくりに貢献して

きました。会員数は、最も多い平成7年には1800人を超えていましたが、その後は加入率が減少し、今年度は832人となっています。(※65歳以上が対象。加入率は約30%) 川口会長は「高齢世帯が年々増える中、長寿クラブが果たす社会的役割は大きくなっていく」とした上で、「今後も対象者の加入を促進するとともに、生活を豊かに楽しむ活動、地域を豊かにする社会活動に努めていきたい」とあいさつを述べました。



映像の部受賞作品の一コマ

をナレーション付きで3分30秒程度にまとめたもの。題材は最上川や旧明鏡橋、旧西五百川小三分校、樫平の棚田で、空撮ならではの映像美、視点の目新しさが特徴です。コンクールではそのほか、組み写真の部でも9月号(春日神社祭礼)が入選1席に選ばれています。広報紙に対する町民の皆様の日頃のご理解とご協力に対し、あらためて感謝申し上げます。(14ページに関連記事)

朝日町自主防災会研修会 ～各種災害の予防策や対処法を学ぶ～

■総務課 防災係 ☎67-2111



講演する尾花沢市民雪研究会の二藤部氏

1月25日「朝日町自主防災会研修会」が創遊館で開催され、各地区の自主防災会をまとめる区役員や地域住民など約120人が参加しました。会では、昨年4月から七ヶ浜町に出向中の佐竹佑斗主事が同町の復興状況を報告したあと、身近に起きる災害や自主防災組織の実践的な活動や訓練について、山形県危機管理アドバイザーの齋藤昭氏が講演。最後に尾花沢市民雪研究会の二藤部久三氏が「雪害事故を防ぐには何をすべきか」と題し、雪下ろし事故防止のための対策を伝えました。ある参加者は「どんな災害でも地域の絆、助け合いの心が大切。日頃の地域活動から信頼関係を構築していきたい」と話していました。

朝日町・山形市間直行バスが利用者5万人を達成

■政策推進課 定住・戦略推進係 ☎67-2112



山形市に向けて役場前を出発するバス

当町と山形市を結ぶ朝日町・山形市間直行バスの利用者が5万人を達成したことを祝し、1月21日、役場前で記念式典が開かれました。朝日町・山形市間直行バスは、高校生の通学にかかる保護者の経済的・時間的負担を緩和するため、町が事業主体となって平成19年10月に運行を開始。最近の利用者は往路便が約25人、復路便が約10人と、今や高校生の子として欠かせない存在になっています。式典では、町長から利用者へ記念品が贈られるとともに、運転手には花束が贈呈され、今後のさらなる安全運行を託しました。

特選受賞

広報紙町村の部 映像の部

山形県市町村広報コンクール



広報紙町村の部で特選を受賞した本紙2014年9月号

「山形県市町村広報コンクール」の今年度の審査結果が1月下旬発表され、「広報紙町村の部」で本紙2014年9月号(右)が、映像の部で「空撮で見ると朝日町の文化的景観」がそれぞれ特選を受賞しました。各作品は今後、日本広報協会が主催する全国広報コンクールに推薦されます。 広報紙の受賞号では、昨年創業70周年を迎えた朝日町ワインを特集。国産ワインコンクールでの快挙を振り返るとともに、ブドウ生産者とワイナリースタッフの熱意、そして努力を伝えています。 映像の部の作品は、「マルチコプター」とよばれる機材で空から撮影した映像



2/1 大雪にも約 1200 人の来場者でにぎわう
自然観スキー場まつり

Asahi 自然観スノーパークの雪まつりが2月1日行われました。町商工会青年部（清野英樹部長／四ノ沢）や町観光協会、(株)朝日自然観等との合同企画で、スノーモービル体験やスノーチューブ乗り、雪玉ストラックアウト等を開催しました。
ウィンタースポーツの人気の少い戻ってきたことや「スキーこどもの日」「レディースDAY」（詳細は Asahi 自然観 HP）などにより、毎週末は家族連れなどで大賑わいのスノーパーク。あいにくの大雪となりましたが、約 1200 人の来場者は、玉こんにゃくやあつあつ豚汁の振る舞いなどで暖を取りながら、普段はやっかいものの雪と楽しくふれあいました。



1/4 スノーボードクロススの国内トップ選手
児珠藍さんのワンポイントレッスン

町在住のプロスノーボーダー・児珠藍さん（大町）によるワンポイントレッスンが1月4日、朝日自然観で行われました。2007年にスノーボードクロスを始め、2010年にプロ資格を取得した児珠さんは翌年の全日本スノーボード選手権で準優勝。一気に国内トップクラスの選手に駆け上がり、SAJ（全日本スキー連盟）の国内強化指定選手にも選ばれています。
本企画は「町の子どもたちとふれあい、ウィンタースポーツの楽しさを伝えたい」という児珠さんの強い想いのもと実現したものです。この日は桃色ウサビも駆けつけ得意のスキーを披露しながら、一緒に来場者を楽しませました。



2/1 本場中国の味付けで春節の料理を味わう
日中友好協会料理教室

「寒河江西村山日中友好協会（会長…寒河江市長）」の主催による料理教室が2月1日、開発センターで開催されました。朝日町のほか寒河江市、大江町、白鷹町から14人が参加。中国から嫁いだ長岡しんさん（常盤）と熊谷蘭さん（前田沢）が講師を務め、春節（旧正月）に欠かせない「八宝飯」、魚のすり身のスープ、ほうれん草とピーナツの黒酢あえ、チンジャオロースの計4品を調理しました。
ナツメやクコの実など日本ではなじみの薄い食材の扱いに戸惑いつつも、真剣に教わる参加者たち。美しく盛り付けられた八宝飯が完成すると、周囲から歓声が上がっていました。



1/24 強力な引力。200食が1時間半で完売
引カバーガーの特別販売

昨年秋に誕生した朝日町のご当地ハンバーガー「引カバーガー」の特別販売が1月24日、本町地内で行われました。町の放牧ブランド豚「あっぴるニュー豚」を100%使用して作ったパテ（ハンバーグ）と、りんごのスライスが特徴のこのハンバーガー（400円）は、昨年秋に「町産業創造推進機構（代表…鈴木町長）」が開発。この日は販売開始の午前11時を前に、すでに20人以上の行列ができ、用意した200食は約1時間半で完売となりました。学童施設「りんごっこ」ではこの日の昼食にと購入。ある児童は「りんごがシャキシャキしてとてもおいしい」と頬張っていました。



2/3 自分の中の弱い「鬼」をやっつけたよ！
あさひ保育園で節分の豆まき

節分の2月3日、あさひ保育園で豆まきが行われました。カラフルなお面をつけた園児に対し、保育士が節分の由来や豆まきの方法を解説。その後、「自分の心の中にある鬼はなに？」と呼びかけると「泣き虫鬼」「早起きできない鬼」「野菜が苦手鬼」など、園児が次々に自分の弱さを発表し、豆まきでそれぞれの「鬼」をやっつけました。
豆まきがひと段落した頃、突然赤と青の鬼がやって来ると、恐怖におびえる園児たち。直前に教わった通り「鬼は外！」の掛け声で力の限り豆をぶつくと、鬼はまもなく降参し、建物の外に逃げていきました。



1/30 海の幸を使った料理を堪能
七ヶ浜町との交流料理教室

「友好の町」として朝日町と盟約を結んでいる宮城県七ヶ浜町との共同企画による料理教室が1月30日、町内から11人の参加を得て秋葉山交遊館で開催されました。
七ヶ浜町で月1回開かれている定期朝市「七の市」に昨年度から朝日町も参加している縁で、更に一歩踏み込んだ関係を築いていこうと企画されました。昨年10月には七ヶ浜町を会場に朝日町の山の幸を堪能する教室も行われており、今回はタコ飯や海老しんじょうのすまし汁、ほうれん草の磯辺巻きなど七ヶ浜町の海の幸を使った料理を堪能したほか、サラダ寒天、いちご大福づくりなどにも挑戦しました。



2010年秋からこの町に移り住んで5回目の冬を迎えています。わたくしウサビの中の人・佐藤恒平は4月に引越すことを決めました！

といっても朝日町を出るわけではなく、宮宿の栄町にある一軒家に住まいを移すことにしたのです。町の空き家紹介制度「空き家バンク」で借りた物件で、昨年末から室内の改装に着手しています。

まず最初に取っかかったのは、一部が傷んでいた畳を剥がし、板張りの部屋を自分たちの手で作ることにした。近所の大工さんから指導を受けて、畳を剥がし、断熱材を入れて、床を張る作業まで行いました。作業を手伝いに町内外から友人が集まって来て、みんなで大工さんが

それいけ！ ウサビと協力隊 第18回

桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平町情報交流アドバイザーと町域おこし協力隊、緑のふるさと協力隊員による連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。



近所の大工さんから指導を受けて去年11月に手がけた床板の張り替え作業

「この春、引っ越します」

朝日町情報交流アドバイザー 佐藤恒平（福島県出身）

家づくりの知識を学びつつ、力を合わせて床を張り替えました。こうやって仲間たちで集まって、自分たちの手で行う大型改装は「セルフリノベーション」といい、全国的にも土壁塗りや、床張りなどのリノベーション体験ツアーが行われるほど、近年注目が高まっています。

町外から参加してくれた仲間からは「家を自分の手でつくる体験をしたら、またこの町に来たくなる」という嬉しいコメントをもらいました。全国のニュースで空き家の問題が度々取りあげられる昨今、自分たちの手で空き家を蘇らせて活用させる取り組みなら、町に若い世代を呼び込みいっきかけになるのではないかと感じました。新住居は現在、業者さんに水回りの改装をさせていただいている最中です。春の引越しが今から楽しみです。



昨年12月に放送された「YTS山形ふるさとCM大賞」をご覧になりましたか？朝日町の作品はこれまでにない空撮映像で、目新しさや美しさは多くの人々から評価の声をいただきました。映像はその後、「空撮で見る朝日町の文化的景観」と銘打った約3分30秒ほどの作品にもまとめられ、このほど行われた山形県市町村広報コンクールの映像部門で特選を受賞しています。

作品の素材となる映像は、すべて山形市に住む永井毅さんから提供していただきました。空撮ヘリ「マルチコプター」を自在に操る永井さん。様々な景色や建物等を撮影し、インターネット上でその魅力を発信しています。



永井さんの映像を元にした作品



「空撮で掘り起こす 地域の眠れる魅力」

永井毅さん(山形市)

ソチオリンピックの臨場感、映像美に感動

マルチコプターを知ったのは一年前のソチオリンピック。スキーやスノーボードの中継で、見たことのない空からの映像が使われていて、その臨場感と美しさに心を奪われました。

その後、建物の屋根や外壁、橋の橋脚部分の確認など、本業である建築設計の仕事にも活用できると思い、7月に購入。価格は約15万円でしたが、安い買い物だったと思いますよ。

フェイスブックに投稿し、感動を共有

操作はすぐに慣れ、仕事以外にも景色や建物を撮るようになった。撮るほどに「たくさんの人に見てもらいたい！」と思うようになりました。「日頃見慣れた景色も、空から眺めるとこんなに美しく印象的になるのか！」。感動を共有したくて映像をフェイスブック（インターネット上の交流サービス）に投稿すると、とてつもない反響が寄せられました。

1月末までに撮った映像

は約200本。1本あたりの撮影時間は約7〜8分程度で、1分30秒にまとめてから音楽をのせて投稿しています。投稿は8月13日から2日も休むことなく続けています。毎日楽しみにしてくれている人もいて、やめられません（笑）。閲覧数は、1件あたり1000〜2000回ほど。中には1万回近くになったときもあります。

朝日町とのかかわり

8月のある日、榎平の棚田の映像を投稿したところ、朝日町のある人がとても気に入ってくれて連絡をいただきました。当時は面識もなかったんですけどね…。

そんな縁から役場の観光担当の方や佐藤さん（情報交流アドバイザー）と親しくなり、その後「映像を町で活用させてほしい」といった依頼をいただきました。私としてはたくさんの人たちに見てもらいたくてフェイスブックに投稿しているくらいです。で、二つ返事でOKしました。ふるさとCMや広報コンクールで活用され、評価をいただくのはうれしい限りです。

深まる朝日町への親近感

これまで撮った朝日町の映像は、榎平の棚田、明鏡橋、西五百川小田三分校、馬神ダム、春日沼、自然観など約20件。中でも一番印象に残っているのが明鏡橋です。10月の早朝、最上川の上流（西側）から橋を見ると、逆光の朝霧の中に美しいアーチのシルエットが見えました。それは息をのむような景色で、墜落覚悟でヘリを出したところですが、編集中はあまりの美しさに涙が止まりませんでした。

もしかしたら私は町の人以上にいろんな場所に足を運んでいるかもしれません。朝日町と言えば、去年までは年に数回自然観でスキーをするだけだったのに、今ではとても親近感を感じます。

「不審者扱いじゃないわ…」

朝日町の中には、人を引き付ける景色や魅力がたくさん眠っていると思います。これからもその掘り起こしと発信のお手伝いをさせていただきます。撮影している私をお見かけの際は、どうか不審者扱いせず、温かく見守ってください（笑）。

町立図書館新刊案内

「キャプテンサンダーボルト」
阿部 和重 / 伊坂 幸太郎 著



蔵王に墜落したB29、公開中止になった幻の映画、迫りくる冷酷非情な破壊者…。世界を救うために、2人は走る。現代を代表する人気作家、阿部和重（東根市出身）と伊坂幸太郎（仙台市在住）が、着想・技術をすべて詰め込んだ最強の冒険活劇。



最上二平さん最新作絵本
「おかめひょうこ」

最上二平作／陣崎 草子 絵
貧しい村には、ずっと昔から鬼が来た。みねのいる村にも、鬼が来た。ある冬、父ちゃんと母ちゃんがおかめとひょうこのお面を作ってくれて…。数々の困難を乗り越え、前向きに生きていく、みねの波乱万丈の物語。



【ブックテマコーナー】
「歴代直木賞受賞作品を読んでみませんか！」

その他の新刊！

- ▼自滅／柴田よしき
- ▼鼠 滝に打たれる／赤川次郎
- ▼月光のステイグマ／中山七里
- ▼とんでもない奴／藤原正彦
- ▼アイネクライネナハトムジーク／伊坂幸太郎
- ▼山形あるある／阿部和重
- ▼新友禅の謎／佐伯泰英
- ▼後見の月／佐伯泰英
- ▼うぶすな参り／佐伯泰英
- ▼よつ十一代目！／佐伯泰英
- ▼オネスティ／石田衣良
- ▼賢者の愛／山田詠美
- ▼アンブラス／阿刀田高
- ▼起きぬ／杉本草子
- ▼影踏み鬼／葉室麟
- ▼千春の婚礼／平石弓枝
- ▼イスラム国アロリスタが国家をつくる時／ロレッタ・ナポリオーニ
- ▼5人のジュンコ／真梨幸子
- ▼荒井良／荒井良
- ▼夢をかなえるソウ3／水野敬也
- ▼ぐつぐつ お鍋／阿川和子ほか
- ▼あなたの本当の人生は／大島真寿美 ほか

連載：あさひまちファンを全国につくっていこう！
by 朝日町ブランド化推進プロデューサー 村尾隆介



ブランド大学には朝日町以外にも大勢の方が参加しています。中でも河北町のグループはエネルギーギッシュ。オリジナルのパーカーがお似合いです

第9回

経営者や市町村が「ブランド力をあげたい」と願う理由

- 市町村や中小企業が盛んに「ブランド化」と声にするようになったのは、ここ5年くらいです。
- 世の中の流れから見れば朝日町は早い方。取り組みの熱心さは、日本トップクラスです。
- それまでは「大企業がやること」と考えられていたブランド戦略…。
- なぜ市町村や中小企業も急に「ブランド化」という話に、近年なってきたのでしょうか？
- 理由は単純。「ブランド化のメリットに世の中全体が気づき始めた」というところが大きいです。
- ブランドと呼ばれるような会社は、総じて“営業”に力を入れなくて済んでいます。
- 営業をしなくても、値下げしなくても、お客さまの方から買いに来てくださるのがブランドです。
- スタッフも同じです。求人をしなくても、ブランド会社にはいい人材が集まってきます。
- その他にも情報・資金・チャンス等々…、経営に必要なものが勝手に舞い込んできます。
- 言い換えるなら「ブランド力」は「引力」のようなもの。効率面でも貢献する魅力的な力です。
- 「この力を手に入れたい」、こう願っているのは会社のみならず、市町村も同じです。
- この引力は産地間競争や観光客および移住者獲得にプラスに働くと、みんな考えています。
- 朝日町がメディアに注目されているのは、このブランド化ブームを牽引する町だからです。
- 他の市町村に比べて、町民全体の前のめり感や、取り組みへの参加率が高いからです。
- このことを自信に、2015年もたくさんアクション起こしましょう！

私も学んでいます ～ブランド大学の受講者の声～



長岡 龍 さん
(栄町)

会社の上司に紹介され、10月から参加しています。講演は町や会社のブランド化だけではなく、生活すべてに通じる内容で、今まで経験したことのないようなワクワク感を毎回感じます。この楽しさをもっと多くの人に味わってほしいですね。



阿部 征史 さん
(河北町)

「ビジネスは金儲けではなく、幸せを創造すること」——。11月に河北町内で開かれた講演で聞いた村尾さんの言葉に感銘し、毎回参加しています。村尾さん、そして朝日町の皆さんと一緒に今後もたくさん学ばせていただきます。



「ブランド力」は「引力」
必要なのが集まってくる

※毎月開いている「ブランドづくり相談会」は、相談者多数のため一旦休止させていただきます。ご了承ください。



食を通した健康づくりのボランティア 「食生活改善推進協議会」

今月の担当…古瀬久美子管理栄養士



「男の料理教室」の様子

「食生活改善推進協議会（以下…食改）」をご存知ですか。食を通した健康づくりのボランティア組織で、全国のほとんどの市町村で組織されています。

朝日町では昭和39年に組織され、現在は40人で活動しています。おいしい漬け物を漬ける名人や凍みもち作り名人など、料理好きの方が多いのが特徴です。今年度から男性（5人）も参加し、さらに賑やかになりました。

活動内容は、調理実習や食に関する勉強会、そのほか男性のための料理教室や地元食材を使った郷土料理の普及、食育活動など。昨年は小学校の入学式で、手作

り豆菓子やプレゼントしました。「豆のように丸く優しく育てほしい」という願いのもと、町内のある地域で行われてきた慣習をよみがえらせました。

「朝日町は高齢化率が高いけど、お年寄りが多いことは、それだけ生きた知恵を持っている方が多いということ」——。これはある会員がよく口にする言葉です。親から子へ、そして孫へ、代々受け継がれてきた郷土料理を地域ぐるみで守り、伝えていくことが必要になっていますが、一人では難しいことも、数人が集まれば大きな力になります。「活動に少しの楽しみが加わると継続する力になるんです。楽しみ部分は大切に活動していきたいものです」

食改では一緒に活動する仲間を募集しています。お気軽にご連絡ください。

▼ご連絡・問合せ先
健康福祉課 健康推進係
☎ 67・2116

朝日町文化財探訪

第8回 ハッチョウトンボ

町指定天然記念物 | (動物/昭和57年指定)|



日本に生息する最も小さいトンボで、体長は17～21mmしかありません。オスは成熟すると全身が鮮やかな赤色になります。一方、メスは茶褐色で、腹部に黄色や黒色の横縞があります。平地や丘陵地の日当たりのよい湿地・休耕地が生息場所ですが、行動範囲も狭く、山形県では準絶滅危種に指定されています。

朝日町では毎年生息が確認されているよ！

ハッチョウトンボの名前の由来は発見された地名からきているんだ。現在の愛知県、矢田鉄砲場八丁目または矢田河原八丁で発見されたからこの名前なんだって。大きさは一円玉に収まるくらい。自然環境の変化で数は減っているけど、朝日町では毎年飛んでいるのが確認されているよ。

ウサビの眼



戸籍のまど

Asahi town

12月1日～1月31日届出

Births

すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
大谷三	白田 眞悠	女	憲彦・未咲
大町	小松 真祐	男	学・由美
大町	高橋 晴	男	登夢・裕子
栗木沢	遠藤 晴	男	翔・南
本町	飯野 心毅	男	意彦・真由美
大谷二	塚本 竜誠	男	哲源・圭子
四ノ沢	鈴木 晴登	男	敦大・千尋

Marriages

おしあわせに

五十嵐 徹 (中沢)	齋藤 朱璃 (山形市)
村山 智 (大谷七)	吉川 由香 (上山市)

Obituaries

やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
水本	高橋 勇助	勇 哲
栄町	武田 光栄	正 清
中能	志藤 俊光	綾 平
大谷五	高取 八子	健 生
本町	高鈴 木子	廣 一
大暮山	阿部 廣治	昌 春
西船渡	阿部 はつよ	賢 一
栗木沢	遠藤 富美子	妙 子
本町	安藤 きよの	五 郎
西町	佐藤 重行	宏 本
送平	海小 松美	江 夫
今太郎	長朽 木幸	弘 一
栄町	常盤 安政	本 夫
四ノ沢	清野 とく子	本 夫

Population

人口と世帯数

●平成27年 1月31日 現在
※()内は11月末比

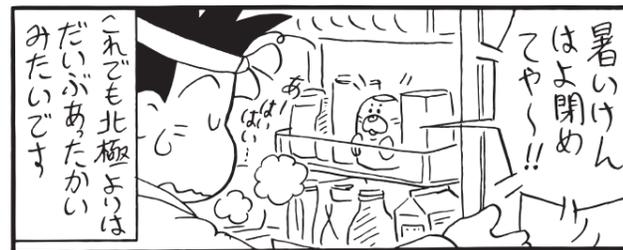
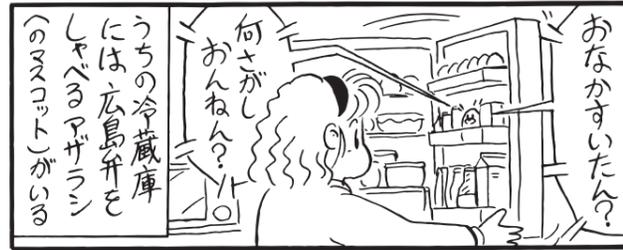
人口 7,554人 (-22)
男 3,736人 (-9)
女 3,818人 (-13)
世帯数 2,502世帯 (-3)

----- 12月～1月中の異動 -----
出生 7人 転入 15人
死亡 18人 転出 26人
(※外国人を含む)

こないのリンゴさん

(271)

ホリイ



寒河江警察署長から感謝状

～朝日町ブロック駐在所連絡協議会～

町内の3駐在所(朝日町、大谷、常盤)と各地域の代表で組織する「朝日町ブロック駐在所連絡協議会(阿部勝男代表)」が12月26日、寒河江警察署長から感謝状を贈呈されました。各種ボランティア活動や自主防犯活動を積極的に推進し、地域の安全安心を確保している点が評価されました。

町商工会女性部ではこのほど、町内のオススメ商品やイベント、場所等をA3サイズの番付表にした「山形県朝日町自慢の番付」を作成し、町内全世帯に配布しました。

部では今年度、佐藤恒平町情報交流アドバイザーを講師に迎え、町特産品の詰め合わせギフトセットを考える勉強会「朝日町おとり寄せグルメ学校(通称おとめ学校)」を5回シリーズで開催。全国の人気おとり寄せギフトを実際に取り寄せ、研究・試食しました。

番付表は、この講座の集大成として企画されたもので、仙台市の市民大学「センダイ自由大学」の事例(地下鉄東西線番付表)を参考にしています。特産品や隠れた人気商品(場所)を一枚にまとめることで、町民がオリジナルギフトを考える際に役立ててもらうことが目的です。作成にあたっては、昨年11月、町内全世帯向けに商品や場所に関する122項目のアンケートを実施し、人気や認知度を分析。その結果をもとに番付が決まり、東の横綱に空気神社、西の横綱にりんごがそれぞれ選ばれました。

実際に詰め合わせギフトを作る際の参考にだけでなく、お店に貼ったり、町外の人に送る荷物に添えたりと、いろいろな活用ができます。佐藤アドバイザーは「『11時半のサイレン』や『除雪のうまさ』などユニークなものもありますので、広く話題にしていただければ幸いです」と今後の幅広い活用に期待していました。



町商工会女性部「朝日町おとり寄せグルメ学校」



1月28日に行われた卒業謝恩会。女学生()の皆さんと講師陣が一年間の学びを振り返った

町の自慢を番付表にしました

がんばった人に拍手

各種スポーツ大会の入賞結果

- 第18回朝日町民柔道大会(12月21日/町民武道館)
- ▼小学生低学年の部 ①佐竹晴(常盤) ②若月保歩(西船渡) ③長岡大聖(常盤)
- ▼小学生高学年の部 ①菊地翔悟(夏井) ②若月真都偉(西船渡) ③若月乃朱(西船渡) ④堀俊介(中沢)
- ▼中学生以上女子の部 ①佐藤和歌子(宿) ②佐藤綾子(宿) ③朽木叶(采町)
- ▼中学生以上男子の部 ①朽木大輔(采町) ②阿部大悟(大谷五) ③村山朝師(助ノ巻) ④村山悦史(助ノ巻)
- 町小学生スキー記録会(2月4日/Asahi自然観スノーパーク)
- ▼5年男子の部 ①阿部凌太(西) 記録:22秒1 ②阿部大介(宮)
- ③田中文崇(宮) ④阿部翔悟(天)
- ⑤佐藤楓(天) ⑥堀 俊介(天)
- ▼5年女子の部 ①村山鮎夏(宮) 記録:23秒2 ②今井舞乙(宮)
- ③布施栄増末(宮) ④石星光希(宮)
- ⑤武田愛梨(宮) ⑥早坂望未(大)
- ▼6年男子の部 ①若月琢馬(西) 記録:21秒6 ②長岡 駿(宮)
- ③鈴木智也(西) ④阿部崇希(西)
- ⑤菊地健人(宮) ⑥佐藤来都(西)
- ▼6年女子の部 ①松尾彩花(宮) 記録:22秒1 ②渡辺りりか(宮)
- ③堀 愛姫(天) ④阿部愛実(西)
- ⑤鈴木美景(大) ⑥鈴木七海(大)



各部門の優勝者

願いや夢などを記した和紙の風船を夜空に飛ばす「神風船まつり」が2月7日、創遊館南側広場で開かれました。

和紙で作った円筒状の風船の空気を温め、熱気球の原理で上空に打ち上げるまつり。「朝日町グラウンドワーク研究会（佐藤欣治代表）」が、町教育委員会の「ニューアクション応援事業」の支援を受けて3年前から実施しています。

今回は町制施行60周年記念事業の一つとして行われ、過去最高となる16団体が参加。快晴、無風と天候にも恵まれ、数十mの高さまでゆっくりと舞い上がる風船の姿に、訪れた人々の目はすっかり釘付けになっていました。



町制施行60周年記念 神風船まつり



町の除雪隊に密着しました。出勤時刻や一日の流れは、8年間広報を担当していても知らなかったことばかり。不勉強を反省しつつも、取材中は好奇心でワクワクしていました。

2月2日は遠藤さんが運転する除雪車に乗せていただき、4時間以上作業を拝見しました。「除雪作業は基本的に前進と後退の繰り返し。いかに後退の回数を少なくするかが効率良く作業するコツ」と遠藤さん。ブレードを上手に使いこな

春夏秋冬 編集後記

道路を守ることは
生活を守ること

し、1回の前進でより多くの雪を集めます。安全に丁寧に、そして手際よく……。大きな除雪車を手足のように操り、雪を寄せていく様子はまさに冬道を守る職人技です。

国県道・町道の別にかかわらず、道路を守ることは、生活を守ることそのものです。話を聞けば聞くほど作業にあたる人たちの苦労と熱意がわかり、頭が下がりました。

佐久間 淳